

平成24年第1回邑楽町議会定例会議事日程第4号

平成24年3月15日（木曜日） 午前10時開議

邑楽町議会議場

- 第 1 議案第16号 平成24年度邑楽町一般会計予算
- 第 2 議案第17号 平成24年度邑楽町国民健康保険特別会計予算
- 第 3 議案第18号 平成24年度邑楽町後期高齢者医療特別会計予算
- 第 4 議案第19号 平成24年度邑楽町介護保険特別会計予算
- 第 5 議案第20号 平成24年度邑楽町下水道事業特別会計予算
- 第 6 議案第21号 平成24年度邑楽町学校給食事業特別会計予算
- 第 7 議案第22号 平成24年度邑楽町水道事業会計予算

○出席議員（14名）

| | | | | | |
|-----|------|----|-----|-------|----|
| 1番 | 塩井早苗 | 議員 | 2番 | 原義裕 | 議員 |
| 3番 | 松村潤 | 議員 | 5番 | 神谷長平 | 議員 |
| 6番 | 半田晴 | 議員 | 7番 | 坂井孝次 | 議員 |
| 8番 | 大野貞夫 | 議員 | 9番 | 田部井健二 | 議員 |
| 10番 | 小沢泰治 | 議員 | 11番 | 岩崎律夫 | 議員 |
| 12番 | 小島幸典 | 議員 | 13番 | 立沢稔夫 | 議員 |
| 14番 | 本間恵治 | 議員 | 15番 | 細谷博之 | 議員 |

○欠席議員（なし）

○地方自治法第121条により説明のため出席した者の職氏名

| | |
|-------|--------------------------|
| 金子正一 | 町長 |
| 大竹喜代子 | 教育長 |
| 中村紀雄 | 総務課長 |
| 小倉章利 | 企画課長 |
| 半田実 | 税務課長 |
| 神山均 | 住民課長 |
| 相場利夫 | 生活環境課長 |
| 諸井政行 | 保険年金課長 |
| 小島哲幸 | 福祉課長 |
| 小島敏晴 | 産業振興課長 兼農業委員会 事務局長 |
| 横山正行 | 土木課長 |
| 小島靖 | 都市計画課長 |
| 飯塚勝一 | 会計管理者 兼会計課長 |
| 茂木一夫 | 水道課長 |
| 河内登 | 学校教育課長 |
| 大舩一 | 生涯学習課長 |

○職務のため議場に参加した者の職氏名

| | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 田 | 口 | 茂 | 雄 | 事 | 務 | 局 | 長 |
| 田 | 部 | 井 | 春 | 彦 | 書 | | 記 |

◎開議の宣告

○立沢稔夫議長 これより本日の会議を開きます。

議事の日程は、配付のとおりであります。

[午前10時01分 開議]

◎日程第1 議案第16号 平成24年度邑楽町一般会計予算

○立沢稔夫議長 日程第1、議案第16号 平成24年度邑楽町一般会計予算を議題とします。

これより逐条質疑に入ります。

まず、一般会計の歳入全款について質疑を行います。予算書では52ページまでといたします。

質疑ありませんか。進行してよろしいですか。

[「はい」と呼ぶ者あり]

○立沢稔夫議長 本間恵治議員。

○14番 本間恵治議員 歳入の町税についてお聞きしたいと思います。

昨年度は、法人税がかなりの落ち込みがありまして、予算から見ますとかなりの減額になった経緯がございます。この町税につきまして、今回予算を計上したわけでございますけれども、その中身ですね、このとおりに税金が見込まればいいのですけれども、滞納等もどんどんふえていますね、経済情勢が悪化していますから。そのような中で、この町税見込みが甘くなければいいのですけれども、予算を計上する上で、また前回のように見込みよりも税金が落ち込む部分がもしあったとするならば大変なことになってくるのではないかなと思います。

そして、今回の予算につきましては、前年度の予算はその前の年度からしますと8.1%増しの予算計上ございました。そして、これが今回はまたさらに1%ふえた予算を組んでおります。そんな中での町税は家庭で言えば収入でございますから、その収入に見合った私は事業計画をするのが本当だというふうに思っていますけれども、その税金の予算がこのとおりに24年度は達成されるのかどうか、お考えをお聞きしたいと思います。

○立沢稔夫議長 半田税務課長。

○半田 実税務課長 ただいまの議員からのご質問の件ですけれども、町税につきましては法人町民税、これが特に減額ということで、平成24年度予算計上させていただいているわけですけれども、大変経済を取り巻く環境が厳しい状況にありますことから、前年度と比較をして法人の税割部分が大変落ち込むというふうに予想をして、推計をいたしました。

過去ちょっと調べたのですが、平成22年度の当初予算額ですけれども、これリーマンショックというふうな影響を受けまして、大変落ち込んだときがありました。そのときの当初予算が法人町民税で9,940万ということで予算計上してあった経緯がございます。ですから、24年度1億2,910万円

で計上してあるわけですが、大変厳しい状況ではありますが、何とかクリアできるものというふうを考えて推計計上いたしました。

以上です。

○立沢稔夫議長 本間恵治議員。

○14番 本間恵治議員 私は、法人税もそうなのですが、滞納の部分が昨年度は1億5,000万を超えていますよね。そういう部分では、この予算計上した部分がおおりにすべていくのかどうか、もっと滞納がふえるのではないかなと、そういう見込みがあると思うのです。私は、課長ではなくて、町長が邑楽町の税収をよく考えたときに、この予算で何とか乗り切れるのかどうか、それはやっぱり課長ではなくて町長の見解だと思うのです。課長が答弁するのではなくて、町長がこういう予算を立てさせたわけですから、その考え方を、町長の考え方をお聞きしたいと思います。

○立沢稔夫議長 金子町長。

○金子正一町長 当初予算の積算については、特に歳入の税の問題でもありますが、今税務課長のほうからの答弁がありましたように、前年実績あるいは過去の経緯を踏まえての推計値であるということは、そのとおりでもありますし、これが日本経済の大きな変動によって、あるいは世界経済の大きな変動によって左右されるという部分はあるわけでありまして。当然施政方針でも述べさせていただきましてけれども、その状況を十分判断した上で、税収の見込みを推計したということでもあります。先日の一般質問でもお答えいたしました、総計予算主義ということを考えていけば、それらについては大きな変動ということになりますと、これはその時点で考えなければならないことでもありますけれども、この歳入の見込みについては課長が答弁したとおり、そのような形で推計し、実施できるものと、そのようにご理解をいただきたいと思っております。

○立沢稔夫議長 本間恵治議員。

○14番 本間恵治議員 町民を取り巻く環境というか、24年度についてはかなり負担が強いられているのです。介護保険料の値上げとか、いろいろありますよね。そして、町長は以前税金の滞納整理を陣頭指揮をとって、先頭に立ってやるのだと言ったにもかかわらず、1億5,000万からの滞納が出ているわけですよ、現実的に。そして、今年度はそういう部分では介護保険料等々町民を取り巻く環境というのは厳しいものがあるわけです。そして、たばこ税については、税金、料金を上げましたから、吸う人が多少少なくても伸びがあるだろうということで余計に計上したりもしていますよ。でも、本来であればたばこは健康のためには吸わないほうがいい、一方ではそういう喫煙者のために吸うところは限られているような部分も、状況もあるわけですよ。

本当にこのとおりに、私は上がれば別にいいと思っておりますけれども、町長は言葉ではたくみにごまかすのですが、本来私が今質問していることが24年度最後迎えたときに、何とかこの予算で乗り切れるのかどうか、私はきちんと監視をしていきたいと思っておりますけれども、それにはやはり滞納整理等々、またきちんとやっていかなくてはならないと思うのです。滞納はどんどんふえていま

すよね。そしてまた、町民を取り巻く環境は、介護保険等々値上げがあったり、厳しい状況の中で就職できない人もたくさんいますし、いろんな状況下の中で私は予算を1%前年度からふやす、最終的には3年前からすれば8.1%に1%ふやせば9.1%増しの予算組んでいるわけですよ、2年前から思えばね。

それで、町長の施政方針の終わりには、地方交付税が今までどおりもらえるかどうかわからないという結びになっているではないですか。そういうことを踏まえた中で、本当にこの税収が落ち込まないで、きちんと挙げた数字の中でやっていけるかどうか、私は監視していきたいと思えますけれども、町長は本当にこの税収が、この数字のとおりになるとしているのかどうか、きちんとお答えをしていただきたいと思えます。

○立沢稔夫議長 金子町長。

○金子正一町長 推計ということもあるわけでありますので、その辺の含めてということになる中では、積算をした推計値が確保されるということ、これからも努力をしていきますし、そのような形で予算執行をしていきたいと、このように思っております。

○立沢稔夫議長 よろしいですか。

ほかにございませんか。進行してよろしいですか。

〔「はい」と呼ぶ者あり〕

○立沢稔夫議長 次に、歳出の第1款議会費、第2款総務費、第3款民生費について質疑を行います。

予算書では53ページから112ページまでとなります。

質疑ありませんか。

原義裕議員。

○2番 原 義裕議員 64ページの庁舎改修工事費ということで支出があるのですが、一応450万円の支出になっていると思うのですが、町長にお聞きしたいのですが、この工事をするに当たって旧庁舎の利用についてちょっとお尋ねしたいと思うのですが、お願いいたします。

○立沢稔夫議長 金子町長。

○金子正一町長 ご質問の件については、旧庁舎の、特に北庁舎の利用ということでもありますが、これは昨年9月定例会の一般質問でもお答えをした経緯もありますし、12月の時点でもご意見をいただきました。現在、この部分を倉庫という形で利用しているわけですが、それらについてこれは旧庁舎の西側に車庫があるわけですが、それらの車庫の改修ということ、倉庫という形で利用するということになるわけなのですが、そういった面も含めてその費用を見積もらせていただいたと。その北庁舎の利用ということについては、これは具体的に障害者の施設を今旧南保育園を利用していただいておりますけれども、大変危険性がある、利用し勝手が悪いという中で、その北庁舎を利用していただくことはどうなのかということで、お答えをした経緯もあるわけですが、そういったことを将来的には利用するというのを考えているわけです。

ただ、それが恒久的なものということになりますと、先日の質問にもありましたけれども、そのままでもいいのかということについては、これからまた皆さんのご意見等を伺う中でこの北庁舎の利用から、いわゆる障害者福祉の充実に向けての考え方ということについては、その時点でまたご相談をさせていただければと。現在の考え方としては、障害者の施設の、現在利用している方の部分をこちらへ移動していただくというか、そういう考え方で今進めております。

○立沢稔夫議長 原義裕議員。

○2番 原 義裕議員 私の質問についてはもっと旧庁舎の全体の考え方というのをお聞きしたかったわけです。もちろん今町長が言われた施設については、これはある程度暫定的にお願いしていくというのが賢明かなというふうに思いますし、私の聞きたいのはそれではなくて、全体的な今の空洞化されている、要するに邑楽町で言えば一等地であり、一番の商業地でもあるわけですね。そういうことでありますので、やっぱり住民の皆さんとの話し合いの中において、あそこの一等地である旧庁舎の跡地をいかに有効利用するかを考え、お聞かせいただきたかったわけです。よろしくお願い致します。

○立沢稔夫議長 金子町長。

○金子正一町長 旧庁舎の跡地の問題ということになりますと、これはいろいろ利用の方法はあるのかなと思いますが、以前の一般質問でもお答えをしましたけれども、1つにはプールの利用あるいは地域の方々のご意見を伺いますと、そこをその地域の遊び場といいますか、公園といいますか、そういう形で利用する方法もあるのではないかなというようにもございました。そういった跡地についてはすべての区長ではありませんでしたけれども、その周辺の区長のほうにはご意見を伺った経緯はありますが、具体的にはそういった方法がよろしいのではないかなということのご意見はいただいております。今現在その跡地について具体的にこのような方法でというのは今考えておりませんので、当然ここを跡地を利用するということになりますと、これはその周辺の住民の皆さん、それから議員の皆さんにご相談をした中でよりよい利用の方法がよいのかなというふうに思いますので、今後の課題という形でご理解いただければと思います。

○立沢稔夫議長 原義裕議員。

○2番 原 義裕議員 先ほど、本間議員のほうからも、収入についての不安ということが言われていたと思うのですが、この旧跡地についてももう3年、4年ですかたっているわけですね。やはり有効活用するというものを具体的に示していかないと、町民の皆さんがやはり疑問を持ってくるかなというふうに思いますので、その疑問を払拭、見える方向性というものを示していただきたいと思うのですが、このことについてお聞きしたいと思います。

○立沢稔夫議長 金子町長。

○金子正一町長 この跡地については、以前は教育財産ということで利用していたわけですが、その後庁舎を建設するというので、一般行政財産としての利用ということになっておりまして、現在

も一般行政財産ということの区分けになっていると。そういうことを考えてみますと、その利用方法については、先ほど申し上げましたけれども、多岐にわたる部分もあるわけですが、教育の学校の施設ということで、庁舎ができる前は利用されていたわけですから、その辺も含めて十分ご議論をいただく中で進めていく。今、言われますように、一等地とか中心地でもありますから、その辺のことも十分踏まえて利用については慎重に考えていきたいと、そんなふうに思っています。

○立沢稔夫議長 本間恵治議員。

○14番 本間恵治議員 今、原議員が言いましたけれども、プールはつくるのですよね。つくらないのですか。いろんな、総合的に勘案したときに、いいですよ、今のところへつくらないで、こっこの校庭にプールつくるのだというのだったら。全体をきちんと把握した中で、その土地利用を考えなければ、それこそ大変なことになるでしょう。教育施設の隣でしょう。もともとは学校の跡地になっているわけでしょう。それこそ町長が一番上に立って、町の将来像を考えた中できちんと計画立ててやっていくのが、お示しするのがあなたの立場でしょう。そうではないのですか。

場当たり的に、そこを使わせるようなことがあれば、もっともってその後から考える利用の仕方によっては難しい問題がどんどん出てきますよ。そうではないですか。慎重に考えてどうのこうのとか、いろんな口では上手に言っていますけれども、そうではないでしょう。邑楽町の中野小学校のそばにある跡地ですよ。それ、幾ら今まで行政がそこでやっていたからと言って、ではその行政のために使うのだという今の話では、言い方ではないですか、それでは。今の現状の、小学校が借りているプールだって、桜の葉っぱが落ちたりどうのこうのと、この間も言っていましたでしょう。まして、小学校の人たちがあそこのプールに行くと、下着が昔盗まれたりとか、そういう不祥事だってあったでしょう。よく考えて、やっぱり子供たちの教育のことを優先して、そこを利用するよな形を考えなければ、私は片手落ちになってしまうと思うのですよね。

将来、中野小学校は廃止するとか、そういう計画があるのなら、違う目的で何に使っても私はいいと思いますよ。そこのところをきちんと、一番上に立っている人が目標を定めなければ、場当たりに、何が足りないから、ではあそこを使えばいいやと、みんなそういう形の中で施設ができたから大変なことになるのですよ。みんな町全体のことを考え、バランスを考え、そしていろんな施設をきちんと集約した中でつくっていかなければ、それはお金があるときならいいですよ、何でも。どんどんつくればいいやと、そういう形になるでしょうけれども、そうではないでしょう。

原議員が言ったのだから、将来のことを心配して今質問したのでしょう。慎重に考える、それは慎重に考えるのは当然のことかもしれないけれども、でもこういうふうにしていきたいと、町長の考えを言わなければ、執行側だれも動けないでしょう。そのまま横滑りして進んでいくだけでしょ。そうではないですか。もう自分で町長になって2期目だったらば、自分の考えをびしっと言って、方向づけをちゃんとするのがあなたの役目でしょう。そのぐらいの気構えがなかったら、邑楽町を背負って一番に先頭切って立って、指針を示しながらやっていかなければ、予算だって何だっ

てできないでしょう。全体を見据えた中で一つの方向性を出すのは町長の役目ですよ。それをきちんと方向を示していただいて、それに向かってやはり施設整備をしていくのが私は町長に課せられた本当の、真の仕事だと思いますよ。今言えと言っても無理かもしれないけれども、早急に私はそのバランスを考えた中でやっていってほしい。

ですから、私は教育委員のときにも聞いたけれども、町長はそのときにはあそこになのはな園をつくるとは言わなかった。その後になって、そこを考えると話した。そのときにそういう話があったのだったら、私は賛成できなかったですよ。そこに施設を持ってくるよりも、もっと違う環境のいいところへ私は提供してやるべきだと思います、本当にやるのなら。まして、施設の園長が教育委員になったわけですから、ましてその学校のそばにそういうことをやれば、第2、第3、では私もあそこに入れてもらおうという方が出てきますよ。そのときお金かけて、みんな設備を修理して、その人のために使ってもらうためにつくってもらう、そういう例ができるわけですからね。

学童保育だってそうですよ。みんな家賃を払ったりして、借りてやって、独立してやっているところもあれば、ではそういう中へ一緒に、では隣があいているから入れてもらおうと、そのとき断れないでしょう、そういうふうになったら。よくその後のことまで考えて、私はやるべきだと思います。

○立沢稔夫議長 金子町長。

○金子正一町長 誤解があるような点もあったかと思いますが、私が先ほど申し上げたのは、町の財産の区分けとして以前教育財産として利用されていたところを、昭和33年ごろだったと思いますけれども、庁舎が建設をされました。教育財産のところの土地に庁舎ができた。その時点で、一般の行政財産に区分けをしたと。現在もその一般行政財産としての区分けになっていますよということを申し上げたわけですので、これ、学校の周辺のことを考え合わせれば、今言われるようなことも十分私もわかりますし、しかしその一般行政財産から教育財産に移管をするということが1つ手法としてあるわけですから、そのことについてちょっと申し上げたということです。

したがって、一般行政財産のままにということで考えていけば、先ほど原議員が言われましたように、その利用目的というのは多岐にわたるのかなということでお答えしたわけですので、したがって一部の区長のほうにもどういった形の利用方法がよろしいでしょうかねということをお伺いしたときに、先ほどお答えしたようなお返事もいただきました。それは一つの意見として、これから進めていく上で考えていくと。それで、これはもちろん地域の皆さん、それから議員の皆さんにも十分お諮りをした中で、どのような方法がいいでしょうかというのは慎重に考えていきたいということで申し上げたつもりですので、私のちょっと言い方がまずかった点がありましたら、それはおわびいたしますけれども、今後もそのような形でこの財産は考えていければと、こんな思いもあります。

○立沢稔夫議長 ほかに質疑ありませんか。

神谷長平議員。

○5番 神谷長平議員 関連ですけれども、私もこの公共用地の計画的な利用、これは必要だと思います。確かに私もこの役場庁舎はあとどのように利用されるかというのを非常に関心を持っていました。先日の中でも、NPO法人が借用するような話も出ています。本来であれば、行政の土地であるから、そこへ入れてしまうというのではなくて、本当に今まで役場があそこにあったときに、その近隣の人たちが役場を支えてくれて、盛り上げてきたと。そういう経緯があります。それで、役場もこちらに来て、過疎化が進む状況にあるものですから、それらをやはり行政として生かしていくような土地利用計画を立ててもらっていかないと、まずいのではないかなと。

将来を考えていきますと、今少子化も大分進んできております。そういう面見ますと、学校の恐らく教室もあいてくる状況が目に見えてくると思います。どうなるかわかりませんが、いずれは学校だって統合だとか、そういう問題も出る可能性が十二分にあるかなと思います。その辺を長期的に見た中で、将来の土地利用計画を立てて、その中でやっぱり一步一步行政を進めていってもらわなければ困るかなと。あそこがあいたから予算つけて、あそこへ倉庫つくってしまえと、そこへ入れてしまえと。そうではなくて、もしそういう施設を利用する人がいれば、そういう条件の中で期間を設定して、例えば何年と、例えば用地を貸すから施設は自分でやってくださいよと、そういう形の中ではっきりと区分した中で提供するような状況をつくっていかないと、もう入った、入ったから、では今度はあそこが悪くなったから修理してくださいよと、そういう甘えた使用貸借の仕方というのは好ましくないと思います。確かに施設とすれば必要かもしれませんが、場所的なものについては十二分に考えていただきたいと思いますので、よろしくお願いします。

○立沢稔夫議長 よろしいですか。

〔「はい」と呼ぶ者あり〕

○立沢稔夫議長 ほかにございませんか。進行してよろしいですか。

〔「はい」と呼ぶ者あり〕

○立沢稔夫議長 進行いたします。

次に、第4款衛生費、第5款労働費、第6款農林水産業費について質疑を行います。

予算書では111ページから140ページとなります。質疑ありませんか。

進行してよろしいですか。

では、進行させていただきます。

次に、第7款商工費、第8款土木費、第9款消防費について質疑を行います。

予算書では139ページから162ページまでとなります。質疑ありませんか。

進行してよろしいですか。

〔「はい」と呼ぶ者あり〕

○立沢稔夫議長 次に、第10款教育費、第11款災害復旧費、第12款公債費、第13款諸支出金、第14款

予備費について質疑を行います。

予算書では161ページから236ページとなります。質疑ありませんか。

本間恵治議員。

○14番 本間恵治議員 第10款教育費、5項社会教育費の、これは1目社会教育総務費の中の、206ページの社会教育施設建設準備事業というのがありますが、これは新規に予算をとったのだと思います。私は、これは予算書で見るのが初めてです。何の説明も受けておりません。新規事業として取り入れるのならば、全協なり議会でこれは周知をしてやるのが本来のあり方だと思いますし、これを中身も言わないで、金額が少ないからということで載せたのだと思いますけれども、これについては議会軽視も甚だしい、そういうふうにも思います。この中身について詳細に、どういうことでこの予算を計上したのか、町長にお伺いしたいと思います。

○立沢稔夫議長 金子町長。

○金子正一町長 町長を補佐する執行部の一員でもありますので、詳細にということなので、お許しをいただいて、生涯学習課長のほうから詳細について説明を……ご理解いただけないですか。

〔何事か呼ぶ者あり〕

○金子正一町長 では、お許しをいただけないようですので、私のほうからお答えいたします。

これについては、ここに記載のとおり、社会教育施設としての事業を起こすということの中での必要経費を見積もったということでもあります。詳細についてということになりますと、以前に議員の皆さんにもお諮りをいたしました経緯もあるわけですが、具体的には、名称はまだ決定はしておりませんが、社会教育を行っていく上での充実を図るための施設整備ということで、ここに記載されております需用費的な金額を計上させていただいたというものでございます。具体的には、それらの施設を整備するための事前の検討していただくための費用ということでご理解いただきたいと思います。

○立沢稔夫議長 本間恵治議員。

○14番 本間恵治議員 3度しか質問できないですから、2回目ですから、言いますけれども、具体的に何のために、どんなような施設をつくるのですか。

それと、現状では町民体育館、武道館、耐震診断やって、ほかの施設もありますけれども、今それを石綿の関係もあって直さなくてはならない。それも早くやるべきところが11月から3月の年度末にかけてやると、そういうことを掲げてやっているにもかかわらず、次の新しい施設をつくるためのこんな予算計上すること自体、ナンセンスですよ。

町長は、選挙運動で何か施設をつくるために形で残そうと思ったからこんな少ない予算を組んでここへ出してきたのではないのですか。今はそんな実情ではないでしょう、邑楽町として。いろんな施設をお金をかけて直さなくてはならないことがいっぱいあるわけでしょう。本来であれば、町長が再選する前の話ですよ、その施設を直すのだって、体育館にしたって、武道館にしたって。そ

れがどんどん、どんどん先送りされて、11月に着工して3月に完成だと、その間施設はみんな使っているわけですよ。前にも言いましたけれども、その石綿の問題だって、話が出てからかなりの期間がたっているわけですよ。それ、行政として何の対応もしないまま、次の施設をつくるためのこんな予算をとること自体が、私は間違っていると思いますけれども、その見解をお伺いします。

○立沢稔夫議長 金子町長。

○金子正一町長 中身が幾つかありますので、1つはアスベストの話もありましたけれども、決して先送りをしたということではありません。最初この施設整備の中で、現在ある施設整備の耐震をとる話の中から、もちろん当時は社会教育施設については耐震診断もされておりましたので、その耐震診断を行うということで議員の皆さんからご意見がありました。その診断を結果としてやりました。その結果、補強というのが必要だろうと。あわせてアスベストの問題については、平成17年だったと思いますが、ちょっとこの年数が間違っていたら……17年、厳しくなったのは。

〔「18年」と呼ぶ者あり〕

○金子正一町長 済みません。平成18年に、その規制値が厳しくなってきたというような状況の中から、人体影響があるということから、早急にそれもしなければいけないでしょうということで、大きく前へ進んできたという経過があるわけです。

それで、これは体育館だけではなくて武道館もそのようです。ここへ来て、邑楽町公民館もそのような状況があるということから、空気中の飛散は検査した結果、出ていませんということではありますけれども、何らかの影響でその危険性が出るということであれば、もうアスベストは大変な状況だということはわかっているわけですから、それで本年度の予算に積算をさせていただいたということでもありますので、一日も早くこれ、やらなければならないということを申し出ていたのですが、当初は議決をいただいて間もなく5月ごろからということで進んできたのですが、いろいろ検討した結果、半年ほど先送りになってしまった、おしかりをいただいたとおりになってしまったわけですが、これについては私のほうも早くやったほうがいいでしょうと、結果として11月になってしまったということは、いろいろ利用者あるいは手続的な問題があつてそうなったということですので、ぜひこれはこの前の一般質問でもお答えをしていたと思いますけれども、ぜひそのようなことですので、ご理解をいただきたいというふうに思います。

それから、新しく社会教育施設の建設ということになりますけれども、これについてもいろいろ私の選挙、再任をされる前の全員協議会なりの場では、いろいろご意見をいただきました。要綱の不備な点もあったことも事実でもあります。そういうことを事務局のほうで整備をして、そして選挙が、再任をされたら考えたらいいのではないですかというようなご意見もありました。これは、私もそういった施設整備必要だというふうに思っておりますから、これからそういった検討をする場をつくり、そしてもちろんお金の問題もあります。建てる場合に大きさがどうなのか、どれが適当なのか、どういう内容でつくったらいいかということも十分この考えていくことが必要だという

ふうに思っておりますから、その準備としての予算措置を計上させていただいたということでもあります。

もちろんその検討結果の中で、建設を進めていきたいという私の思いはあります。なので、その施設が使い勝手がよくなければだめですし、多くの方に使われるような施設でなければだめだということがあるものですから、それをこの準備の中で十分進めていっていただきたいという事務的な費用ということで計上させていただいたということです。

したがって、これからは新しい事業を全員協議会なり皆さんのところでお示ししなかったということは大変申しわけないわけでありますけれども、今後はそういうことがないように十分注意をしていきたいというふうに思います。

○立沢稔夫議長 本間恵治議員。

○14番 本間恵治議員 町長が一つの事業をやろうとするときには、必ず方向を示して、それを執行部と、また議会側と一つの方向性を間違わないように検討しながら進んでいくのが本当のあり方なのです。現状で、私はここにいる議員の皆さんが、この施設の事業を進めるためにこの場でこの予算を載せた方がいいのかどうか、私はそれぞれに聞いていただければわかると思いますけれども、町の財政から考えたってそんなのを今立ち上げる必要は私は何もないと思うのです。町長が、2度目の再選に臨むに当たって、それ以前に耐震診断や石綿の問題や、いろんなことをやった中で、耐震設計までもうお願いしてしまったのですから、町長は胸を張って本来であれば、私は体育館と武道館を真っ先に改修しますと、そういうことを公約に掲げて町民にアピールするのが、私はあなたの役割だと思いますよ。何ひとつ具体的な話は出してこなかったではないですか。あなたはもう忘れていたのです、選挙のことだけで。

実際に私が片方ずつやったのでは余計お金がかかるから、早急に、一緒に改修したほうが良いと言ったのは、もう随分前の話ですよ。それから、今までどのぐらいかかっていると思っているのですか、1年ではきかないでしょう。まだ前の議員がいたときに、そういう話はしたのですよ。それは、静かなときに、空気中の石綿をはかっても、空気が動いていなければ、それは出ないですよ。では、今地震がこんなにあるのに、揺れれば天井と板がこすればいっぱい降っていますよ。地震のときにはかってみてください、そしたら。そんな当たり前でしょう。天井はみんな軽くできているのですよ、地震が来ても追従するような形の中で。ですから、これだけ地震があって、地震が起きたときにはかれば絶対に私は出ると思っていますよ、その石綿の問題だって。それを黙って町民に使わせておいて、そういうことでしょう。それだったら、入り口に、「この建物は石綿が使っています」と、「気をつけて利用してください」と書いたっていいではないですか、それだったら。必要最小限だけ使わせるとか、何かあるでしょう。何の手も打っていないでしょう。ただ11月から始めると言っただけではないですか。ある意味では町民をだましているのと同じでしょう、その利用者の人たちにしたって。

そういうことが、大事なことがいっぱいあるにもかかわらず、こういうことをこそそと、予算が小さいから出してもわからないだろうと言って出してきたのではないですか。そんなことしか考えられないですよ、だって。議会にだって、私たちは委員会は話があったかもしれないけれども、全然聞いていないですから。予算書見て初めてわかったのですから。私だけではないと思いますよ、うちのほうの委員会の人は知らなかったと思いますよ、町長から聞いた人は知っているだろうけれども、町長のところに行って。

町長の報酬だってそうですよ。10%、15%という折衷案を出したけれども、全然聞き入れてもらえなかったという人までいる。でも、実際にはあなたのところに行った人だけの意見を聞くのは間違いですよ。議会は議会として、議会の総意で一つの方向性を出していくのが議会のあり方ですよ。それをあなたのところに行った人だけの意見を聞いて、それで決めるということ自体が大間違いなのです。それでは議会はなくてもいいのですよ。町長の言うことを聞く人たちだけでやればいいではないですか。そういうことでしょう。

〔何事か呼ぶ者あり〕

○14番 本間恵治議員 いや、そうですよ。そういうところで決まっているのだから。

議会にちゃんと諮るのであれば、議長を窓口にして、議会で集約して一本化した中で、議長が代表で町長にお話をすればいいことですよ。議会の権威も何も全部今は最低のときだと私は思います、情けないけれども。これをきちんとした軌道に乗せるために、町長も議会をきちんと、軽視することなく今後の事業対策にも当たっていただきたいと私は切に要望いたします。

終わります。

○立沢稔夫議長 金子町長。

○金子正一町長 1つだけお答えをしますけれども、これは議会でありますので、私は一部の方のという思いはありません。議会で審議していただいて、議会の中で決まったことについてはそのまま今までも守ってきたつもりでもありますし、したがって今後も私は誠意を持って皆さんのご意見を伺う中で進めていくということをお約束したいと思います。

○立沢稔夫議長 ほかに質疑ありませんか。

神谷長平議員。

○5番 神谷長平議員 非常に町長のこの議会に対する対応の仕方がまずいかなと。もう少しうまく行政が回るような体制をとっていただきたい。なぜかといいますと、先ほど本間議員がおっしゃったように、この社会教育施設の整備についての関係については、一切私も話を聞いておりませんので、予算書見て初めてこういう状況があったものですから、それでその施設整備はどうだということで、私は後期5カ年計画の総合計画を焼いて持ってきて、これらのものがはっきりしているのに、予算とるのにこんなあいまいな形で予算とる自体が本当に議会軽視だと思います。この辺の今後気をつけていただかないと、いつになっても行政と議会のほうでうまく回っていかないのではないかと

などと思います。ぜひこういうことがないように、今後何か町長が新事業を起こすときには、全協に諮って、議員の意見も参考にさせていただきたいということで私はお願いします。

以上です。

○立沢稔夫議長 町長、答弁をお願いします。

金子町長。

○金子正一町長 十分その辺については自分自身気をつけて、対応していきたいと思います。

大変申しわけありません。

○立沢稔夫議長 ほかに質疑ありませんか。

大野貞夫議員。

○8番 大野貞夫議員 ただいまの今話されたことに関連して、私も質問を申し上げたいと思います。

いわゆる社会教育、はっきりとした名称は出ておりませんが、かつて平成22年度の予算の中で中央公民館建設準備事業として、これと金額的には同じ6万6,000円というのが計上された経過がございます。その後、23年度においてはそれがなかった、なくなりました。

それで、212ページですね、これに関連をしまして邑楽町公民館耐震補強、それから改修事業費として大変大きな金額が出ております、3,783万2,000円ですか。これらの関連性を私ちょっと見ますと、いわゆる確認をしたいのですが、今町長がお話をされていることは、具体的には中央公民館という理解をしてよろしいのでしょうか。

○立沢稔夫議長 金子町長。

○金子正一町長 仮称ということで申し上げますけれども、そのような考え方で進めていきたいと、そういうふうに思っております。

○立沢稔夫議長 大野貞夫議員。

○8番 大野貞夫議員 そうしますと、今大変財政も厳しい、こういうときに、中央公民館ということについては私もかねがね一般質問の中でも、また私の公約の中にも今の邑楽町の文化事業といえますか、非常に活発にやられておるわけです。それに対応した施設というものは、お金はかかりますけれども、やはり住民のニーズにこたえていくという観点からすれば、必ずしも要らないということではなくて、将来に向けてすれば必要なことだというふうに思います。

しかし、現実には私ちょっと調べたのですが、今私が言った212ページにありますこのほかに、既にこの邑楽町公民館についてのいわゆるこれは平成22年度です。この一般会計補正予算(第1号)の中で邑楽町公民館第2次耐震相談委託料として234万4,000円、これが計上されておりました。それから、平成22年度の歳入歳出の決算書、この中には邑楽町公民館第1次耐震診断委託料として58万8,000円の計上、また邑楽町公民館第2次耐震診断委託料として234万1,500円、これが計上されております。その後、平成23年補正予算(第3号)で同じく邑楽町公民館の耐震補強工事設計委託料として273万円計上されております。同じく23年度補正予算(第4号)、邑楽町公民館アス

ベスト含有検査手数料として15万8,000円の計上、同じく邑楽町公民館気中アスベスト検査委託料として4万円の計上、平成23年度の補正予算（第5号）、これも邑楽町公民館耐震補強工事設計委託として20万円の計上、そして今私が言いましたこの24年度の予算書の中で3,783万2,000円というものが計上されている。

こういう経過の中で、やはり今のこういう財政状況の中であっちもこっちもとやる余裕はないのではないかと思うのですね。ですから、今町長が先ほどから言われているように、将来にわたっての展望として町長としての邑楽町はこうやっていくのだというものが、やはり場当たりの聞こえるのではないかと。だから、今あるものをここをやるのか、だけれども、これだけ大きなお金を公民館にもうかけてあるわけです。だとすれば、これを生かすのがいいのか、この辺の考え方を明確にしないと、やっぱり私たちもこれどうなっていくのだろうという不安にかられるのは当然の話だと思うのですが、その辺のお答えをいただきたい。

○立沢稔夫議長 金子町長。

○金子正一町長 まず、補正予算等のお話ですが、耐震診断を実施した結果、耐震性が弱いと。したがって補強工事が必要だというような第2次診断の結果、出たわけですね。それを受けて邑楽町公民館の補強工事ということで、当初考えたわけでもあります。その計画で進めていこうとした矢先なのですが、私も実はこのアスベストが含有されているということについては最近、最近といいますが、済みません、詳細に手元になくてあれですけども、そのアスベストが含有しているということがわかったのが、今課長からお聞きしますと昨年の年度末だったということが判明しました。それで、アスベストが入っているということなので、これまた気中での検査をしたという経過があります。

ですから、当初はアスベストの除去というのはわからなかったもので、含めてありませんでした。したがって、耐震の補強工事をすればそれで済むだろうというふうに進めてきたわけですけども、そのアスベストの含有があるということなので、それでは先ほどもお答えしましたけれども、早急に除去改修が必要だろうというふうになってきて、今日に至る。その工事をするのに大変3,700万円ほどのお金がかかるというような見積もりであるわけですので、これは今利用しているということを考えれば、人体に影響があるということを最大限に考えていかなければならないので、優先的に取り組むと、公民館についてはですね。

それで、その後の今度はこれからの展望という話が出ました。実はこの生涯教育施設については、以前この邑楽町公民館、それから産業研修会館ヤングプラザが、ヤングプラザはちょっと所有の部分が違いますけれども、利用は生涯学習課でやっているものですから、その施設を地域的な公民館というか、施設として使ったらどうかということで、実は事務局のほうで社会教育委員に諮問をした経緯があります。その答申は、今の状態で使ったほうがいいでしょうと、現時点ではそれがいいでしょうという答申です。しかし、これからのいろいろな経費の節減だとか、その施設の利用勝手

ということについては、これは今事務局でも研究してもらっていますけれども、その各地区の公民館という形での利用をし、ここまで踏み込んでいかどうかあれですが、いわゆる貸し館的などというようなことがいいのかということも要は経費の削減ということも視野にあるわけです。

したがって、中央の施設ですべて管理を、そこで働いている職員の方にもそこで集中的に行っていただく、そして専門的に社会教育主事を持っている職員は利用団体に対して社会教育指導をしていく、そういった考え方がよろしいのではないかとということで指示してあります。

では、施設の整備をいつごろまでにとという具体的、お金がないのでどうするのだというお話がありましたけれども、これは私の考え方としては今検討委員会をしていただく中で26、27年度には、お金の問題もありますから2カ年の継続事業ということの考え方で、26年あるいは27年の2カ年にかけてその施設整備ができればよいのかなと。もちろん財政的な問題もあります。

〔何事か呼ぶ者あり〕

○金子正一町長 いや、展望ということですから、私の考え方を示しているわけですが、お金の問題もありますから、これも慎重に考えていかなければなりません。

したがって、そういう点ではこの借入金ですとか、それらも十分研究し、負担が少しでも少ないような考え方でいければと……

〔何事か呼ぶ者あり〕

○立沢稔夫議長 静粛に願います。

○金子正一町長 そういう考え方で、私の展望としてです。そんな思いで今お示しをいたしました。

以上です。

○立沢稔夫議長 大野貞夫議員。

○8番 大野貞夫議員 今、町長の考え方、私は個人的な考え方として聞いていたわけなのですが、やはり議会の中でそういうことが一切話し合われない中で、急にこういうふうに出てくるということ自体が、だからこういう話になるのですよ。やっぱり、きちっともう少し具体的に今現在邑楽町公民館もこれだけお金をかけてやっているわけですから、だとすれば今中央公民館、実際に一口で言いますけれども、何十億の金がかかりますよ。相当のお金がかかると私は思います。

だから、そういう点から考えても、26、27年度というともうすぐですよ。そんなことは現実には私は無理だと思います。やっぱり地に足をつけた考え方というのですか、やっぱりそれを議会の中にもお示しをいただいて、具体的にそういう中で話し合っていくということが私は必要なのではないかとというふうに思いますが、いかがでしょうか。

○立沢稔夫議長 金子町長。

○金子正一町長 先ほどもお答えしましたけれども、これを積算するについてそういった準備がされていなかったということについてはまことに申しわけなく思っています。

これからもちろん今考え方をお示ししたということもありますので、十分皆さんのご意見を聞く

中でこの事業を進めていきたいという思いでもありますので、今後それぞれのご意見があると思いますので、十分お聞きした中で進めていきたいと、そのように思っております。

○立沢稔夫議長 ほかには質疑ありますか。

小沢泰治議員。

○10番 小沢泰治議員 先ほど前の三方のお話のように、議会に諮っていない、前年度がゼロですね。それで、今年度諮らずにこれをのせてきたということが、まず第1の問題だと思います、これね。それで、でものせてしまったわけですから、それについて町長は現在どういう考えのもとに社会教育、それと施設建設、それと準備事業ということがここにのっているわけです。そしたら、町長自身はどのような目的だとか、あるいは予算の面だとか、邑楽町の人口の面だとか、あるいは広域の関係、利用率、ランニングコスト、そういうことについてその中のどういうことを念頭に置きながらこの予算6万8,000円を出してきましたか。

○立沢稔夫議長 金子町長。

○金子正一町長 重複しますけれども、もちろん生涯教育の充実を図っていくということが大きなねらいでもあります。その上に立って町民の皆さんに利用していただく、文化活動あるいは生涯学習活動を高めていただくということが大きなねらいです。

その方法というか、そういう考え方については先ほどもちょっと、過去に諮問をしたという経緯があります。したがって、その利用方法については大きくは経費の削減も入ってきますし、文化活動を高めていく上での専門的な知識をなお指導ができる体制づくりが一極に集中することによってできるのかなというふうに思っております。

○立沢稔夫議長 小沢泰治議員。

○10番 小沢泰治議員 町長は、今置かれている状態を考えていないですね。邑楽町の人口が今後どのように推移するか、また財政についてどのようにふやしていけるか、また広域でどのくらいの施設の利用率があって、また邑楽町町民が利用させてもらっているか、その辺をわかる範囲で聞かせてください。

例えば日本じゅうを例にとれば、1億2,806万人が8,674万人に50年後には減るのですよ。そういう仮定があるということは日本の経済は相当衰退するというふうに私は見ているのです。あなたみたいな行政運営では、私だったらそんなことないです。なぜかという、拡大生産していかなかったら、税収も上がらないし、そういうことありますから。地の利があるわけですから、そういうことをもとにして頑張っていきます。

それでは、では邑楽町において、今言った1億2,806万人が8,674万人になる。では、そういう中で邑楽町では今後、施設ですから30年、26、27年で作るとしたら、30年以内にどのくらいに人口が減りますか、教えてください。

○立沢稔夫議長 金子町長。

○金子正一町長 どれくらい減るかということも、ちょっと申し上げられなくて申しわけないのですが、町のほうに10カ年の計画がありますね。これは、当初設計ではもっと多い人口になるだろうということの見通しでしたが、現状は少子高齢化ということになっていきますので、議員が言われますように、人口減というのは否めないかなというふうに思いますけれども、具体的にどれくらいということになりますと、ちょっと今1億2,000万人が50年後には8,000万人ということの割合で推移すれば、邑楽町の人口に対してその割合で減っていくかなと。すべてではありませんけれども、そういう単純な言い方で申しわけありませんけれども、そういう推計ができるかなというふうに思っています。

○立沢稔夫議長 小沢泰治議員。

○10番 小沢泰治議員 町長の行政運営では、日本の平均よりもきっと減ってしまいますよ。なぜかという、今現在は過疎地、そういうところでも減っております。それがやはりこういう住宅地といいますかね、昭和40年代から急激に伸びたという邑楽町はそういう町ですから、その高齢者がふえている新中野見ればわかりますけれども、そういう地域的な問題がありますから、町長の施策でいったら必ずそれ以上に減ってしまうと思います。なぜならば、この4年間何の手も打てないような首長なのです。でしたら、そうでなく、やはり町民に負担がかからないで、利用がちゃんとできる、町民が頑張れるというか、魅力ある町と考えるような施策を打つべきで、今このホールをつくって、ホールというのが社会教育と書いてありますけれども、ホールが主眼だと思うのです。併設かもしれないのですけれども、そういう中でもう少し邑楽町を見据えて、しっかりした自分の考えを持った上で事業を推進しなければ、私は他施設を利用させてもらう、それが適当だと思います。

それで、やはり邑楽町単独では今後生きていけない、あなたの施策では。私は、十分活性化できるというふうに自信持っています。その辺私思っているのですが、あなたはそれでも議会にも諮らず、勝手にこういう予算を立てて、これを26、27年に推進していくか、お聞きしたいと思います。

○立沢稔夫議長 金子町長。

○金子正一町長 議員の人口が減らないようなお知恵もいろいろお聞かせを後ほどいただければと思いますけれども、そういうことにならないように皆さんのご意見をいただきながら進めていきたいというふうに思いますので、他の町におくれをとらないようにぜひ考えていきたいと、このように思います。

○立沢稔夫議長 ほかに質疑ありませんか。

〔「まとめる」と呼ぶ者あり〕

○立沢稔夫議長 3問で終わりです。

小沢泰治議員。

○10番 小沢泰治議員 そうすることで、邑楽町は人口が日本全体の予想よりもきっと減ると思うの

です、あなたの施策では。ですから、そうでなくなるように、この26、27年なんて言っているのは、あなた次の選挙目当てですよ、これ。そうでなく、地に足をつけて、邑楽町が財政的にも産業的にもみんな豊かになって、文化的にも高まるような施策を考えていただきたいと思います。

一部の団体がどうのこうのだからでなく、議会と行政あるわけですから、議会も重視してもらって、事業執行をお願いしたいと思います。

○立沢稔夫議長 ほかに質疑ありませんか。

小島幸典議員。

○12番 小島幸典議員 関連質問なのですが、これは予算の6万8,000円ですね、これは普通であれば、これ各町の有識者の中で社会教育施設についての研究会を持つ。であれば、ボランティアでやってもらえばいいと思うのです。こんな財政が逼迫している、要は財政調整基金からの9,000万円、それと国民健康保険、後期高齢者、介護保険等の比率ですれば、何回も私は言っていますけれども、お年寄りから病院で寝ているお年寄り、それとやっとならんにサロンの広場に来るお年寄り、そういう人たちの費用が約2億5,000万円も前年度に対して多く徴収するような今の時代なのですよね。そういうことを考えれば、恐らくこの委員に選ばれる人たちというのは、功成名遂げた人だと思うのです。わずか6万8,000円の予算をちょうだい、ちょうだいと言う人はいません。私も無償でやりますよ、選ばれればですよ。町長と一緒にそういう諮問機関へ入りましょうよ。だから、こういう問題が起きるのですよ。予算ですから、税金ですよ。そういうことをもっと自分たちで体で奉仕する、俗に言う腹を切って一生懸命町のためにやるのだと、そうすれば議会でのこういう質疑のことは少なくなると思います。

だから、こういうふうに予算つけてくるから、それで箱物であれば、これ優先順位として北保育園の老朽化問題、0歳児の見られるような施設、それと中野の児童館とか、やっぱり子育て支援だとか、そういう優先順位が箱物にはあっていいと思うのです。そういうことを考えれば、この6万8,000円、これは予算つけたのだから、つけていいのだけれども、ボランティアでやってくれる人と、そういう人を選んでもらえれば、この6万8,000円がもし残れば、繰り込めばいいのですから、一般財源に。そういう方法をとってもらえないかなと私はそういう提案したいのですけれども、課長でも町長でもどっちでもいいですけれども、その辺の発想の転換ですね、そういうことを町民にできるだけとにかく負担がかからないような、それでこういうお金は健康維持のする、そういう生涯学習、これも生涯学習の仕事ですよ。サロンの広場だって月1回やっておりますけれども、これは2回とか、よっていがっせだって一生懸命やっています。そういうほうへお金をつぎ込むことが大事で、元気で生活に困っていない人は奉仕すべきです。私はそういう物の考え方、どうですか、町長でも課長でもどっちでもいいですから、その辺の考え方を聞きたいと思います。

○立沢稔夫議長 大脳生涯学習課長。

○大脳 生涯学習課長 お答え申し上げます。

こちらの社会教育施設建設準備事業でございますけれども、6万8,000円ということで、大切な税収の中からこの予算を計上したわけでございますけれども、基本的にはその検討委員会の、検討委員会というか、こちらの準備事業ですね、こちらの中で使う資料の消耗品とか、視察等の燃料費等で一応そちらの検討準備会のほうの委員の報酬とか、そういう部分につきましては無償でやっていただくというようなことで予算を計上いたしました。

以上でございます。

○立沢稔夫議長 小島幸典議員。

○12番 小島幸典議員 今、無償だということでお答えをもらったのですけれども、これもとにかくできるだけ、これから暖かくなって、非常に過ごしやすくなると思います。そういう中で、できれば午後から会議でも、夜でもやれば、みんな参加しやすい。朝の10時からとか、1時からという、これはPTAの人たちとか、そういう人たちもみんな今は本当にワークシェアリングと言って仕事分担されてやっています。3交代でやっています。3時間、3時間、3時間とか。そういう非常に今不景気の時代ですね。それで、みんな高等教育を生涯学習課長、もう知ってのとおり、みんな、我々だってパソコンの勉強しなくてはならない社会になっています。ほかにお金がかかるのですよ。だから、そういうことでできるだけ功成り名遂げている人、余裕のある人、そういう人たちは無報酬でやれるような雰囲気、町の雰囲気をつくってもらいたい。私は、これ町長のほうにこれが聞きたい。功成り名遂げた人はもっともっと欲しいではなくて、どうか協力してくださいよと、そういう発信をしてもらいたい。町長、どうですか。

○立沢稔夫議長 金子町長。

○金子正一町長 過去にもそういった審議会の委員等については報酬なしで行っていたというのと、以前はその審議会の委員には日当幾らという形でお支払いをしていたのですけれども、その後それはなくして、一部の委員にはお支払いしてありますけれども、それ以外の方については今言われたような形でいろいろ話し合いをしていただいているという経過もありますから、今後今のご意見等については関係する委員会のほうにもいろいろお諮りをして、そしてそういう状況が作り出せればなお効率的な運営ができるのかなと思いますので、早速その辺のところについては関係する課長のほうに、委員にご相談するように話したいと思います。

○立沢稔夫議長 小島幸典議員。

○12番 小島幸典議員 前向きな町長のそういう指針を今聞いたのですけれども、またあと生涯学習課長にはこの6万8,000円というのは燃料費、石油関係ですね、それとお茶とかといいますか、できればお茶なんかも自分で持参して持ってくる、そのぐらいの気持ちの人たちを選んでもらいたい。それと、箱物なので、これはかなりの重たいお金がかかると思います。そういう中で、審議の中で恐らくいろいろな人がいい意見を出すと思います。私も、先ほど言った選ばれれば参加します。そういう流れの中でやはり積み立てしていかないと、こういう時代の中ではお金が足りません、

絶対足りなくなりますが。ということは、なぜ足りないかという、先ほど話したように、保育園だってまだあのままです。恐らく30年以上たっていますよ。中野の児童館だってそうですよ。こういう箱物の優先順位を考えたら、だってお金がないから手つかないと思うのです、予算組みができないと思うのです。

だから、そういうことを考えれば、もっと本当に先ほどだれか、みんな言っていますけれども、委員会なり全協なりに投げかけて、自由にみんなの意見が聞ける、そして初めてこういう予算組みとか、そういうのを説明ができれば、だからこういう紛糾は少なくなります。だから、そういうことを考えれば町長のそういう政治姿勢、そういう理念、それを十分夢があっていいと思いますよ。だけれども、その手順がちょっとおかしいかなと思うから、こういう議場でのやりとりになります。なぜかという、やっぱり議場で話したことは記録に残りますね。だから、私は議場で特に私なんかみたいに地位のない、とにかく普通の人間が話した場合は、ああ、そんなことあったのかなと、今までそういうケースが議会ではなくても、いっぱいあります。そういうことを考えれば、議場というのは言論の府、みんながいろいろの意見を話して、その中で執行部、特に課長なんかには勉強して、それで町長にどんどん具申してもらえればありがたいと思います。答えは要りませんので、そういう要望として私の質問を終わります。

○立沢稔夫議長 ほかに質疑ありませんか。進行してよろしいですか。

〔「はい」と呼ぶ者あり〕

○立沢稔夫議長 これにて質疑を終結します。

これより討論に入ります。討論ありませんか。

大野貞夫議員。

〔8番 大野貞夫議員登壇〕

○8番 大野貞夫議員 議案第16号 平成24年度邑楽町一般会計予算に反対の立場で討論に参加をします。

今回の予算案は、個々にとってみれば評価に値する面も多々あると思います。例えば東日本大震災を受けての対策事業、規模はまだ少ないと言えますが、地域防災計画に着手するための予算計上、あるいは中小商工支援の町の活性化に向けての住宅リフォーム助成制度の創設など、見るべきものもあります。しかし、今日実際の住民の実態はどうでしょうか。長引く不況のもと、生活は苦しくなるばかりです。払いたくても払えない国保税、高齢者いじめの後期高齢者医療保険の改悪、そして大幅に値上がりする介護保険、もとはといえば国、民主党政権の国民に対しての公約の裏切りそのものにほかありません。こんなときこそ自治体はその防波堤にならなければならないと思います。限られた予算の中ではありますが、住民の命と暮らしを守る本来の責任を果たさなければなりません。町は思い切った発想の転換をすべきと考えます。

以上をもって反対の討論といたします。

○立沢稔夫議長 ほかに討論ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○立沢稔夫議長 これにて討論を終結します。

これより議案第16号 平成24年度呂楽町一般会計予算について採決します。

本案は原案のとおり決定することに賛成の方は起立願います。

〔起立多数〕

○立沢稔夫議長 起立多数。

よって、議案第16号は原案のとおり可決されました。

暫時休憩をいたします。

〔午前11時33分 休憩〕

○立沢稔夫議長 休憩前に引き続き会議を開きます。

〔午前11時45分 再開〕

◎日程第2 議案第17号 平成24年度呂楽町国民健康保険特別会計予算

○立沢稔夫議長 日程第2、議案第17号 平成24年度呂楽町国民健康保険特別会計予算を議題とします。

これより質疑に入ります。質疑ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○立沢稔夫議長 進行してよろしいですか。

〔「はい」と呼ぶ者あり〕

○立沢稔夫議長 これにて質疑を終結します。

これより討論に入ります。討論ありませんか。

小島幸典議員。

〔12番 小島幸典議員登壇〕

○12番 小島幸典議員 議案第17号 平成24年度呂楽町国民健康保険特別会計予算について賛成討論をいたします。

国民健康保険については、高齢者や無職者の加入割合が高いことや、高齢化の急速な進展や医療技術の高度化に伴い、医療費の増加が続いております。

国民健康保険財政は、依然として厳しい状況にあります。平成24年度呂楽町国民健康保険特別会計予算額は、前年度に比べ1億69万4,000円増額の28億6,979万8,000円です。国民健康保険は、国民皆保険制度の基盤的役割を果たしており、地域医療の確保や住民の健康維持に大きく貢献しております。

厳しい状況の中で、今後も予防を中心とした保健事業の充実と健康増進対策などに努力するとともに、国保税の適正な賦課徴収に努められ、一層の国保財政の健全化を図るよう期待して、本予算に賛成いたします。

○立沢稔夫議長 ほかに討論ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○立沢稔夫議長 これにて討論を終結します。

これより議案第17号 平成24年度邑楽町国民健康保険特別会計予算を採決します。

本案は原案のとおり決定することに賛成の方は起立願います。

〔起立多数〕

○立沢稔夫議長 起立多数。

よって、議案第17号は原案のとおり可決されました。

◎日程第3 議案第18号 平成24年度邑楽町後期高齢者医療特別会計予算

○立沢稔夫議長 日程第3、議案第18号 平成24年度邑楽町後期高齢者医療特別会計予算を議題とします。

これより質疑に入ります。質疑ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○立沢稔夫議長 進行してよろしいですか。

〔「はい」と呼ぶ者あり〕

○立沢稔夫議長 これにて質疑を終結します。

これより討論に入ります。討論ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○立沢稔夫議長 討論なしと認めます。

これにて討論を終結します。

これより議案第18号 平成24年度邑楽町後期高齢者医療特別会計予算を採決します。

本案は原案のとおり決定することに賛成の方は起立願います。

〔起立多数〕

○立沢稔夫議長 起立多数。

よって、議案第18号は原案のとおり可決されました。

◎日程第4 議案第19号 平成24年度邑楽町介護保険特別会計予算

○立沢稔夫議長 日程第4、議案第19号 平成24年度邑楽町介護保険特別会計予算を議題とします。

これより質疑に入ります。質疑ありませんか。

大野貞夫議員。

○8番 大野貞夫議員 今回の介護保険、この特別会計の予算でございますが、いわゆるこれは3年ごとに見直しが行われると。その関係で今回の介護保険料の大幅値上げが、これはこの邑楽町だけの問題ではなくて、全国的にもこの4月から43都道府県で上がります。そのうち17都府県で年に4,000円以上の値上げ、それから65歳以上の介護保険料も月平均4,160円から5,000円程度、大幅にアップになるという統計も出ております。まさに弱い立場である低年金で、辛うじて生活をしている、こういう人たちからは本当に悲鳴が起きています。

邑楽町でも、この第5期介護保険料が示されたわけでございますけれども、この内容的には事務方からはあらゆる基金とか、これは2年前に法律が改正をされまして、いわゆる都道府県に設置をされた財政安定化基金という、これの取り崩しも行われる中で、もちろん基金もそうでございますが、第1段階から第6段階まで、その間に第3段階は区分をして、いわゆる特例という形で1つ設けたと。それから、第4段階も同じく特例を設けて、できるだけいわゆる弱者と言われている人たちの保険料の軽減のために努力をされた、そういうことでそれなりにこの資料を私もいただきましたけれども、努力をされているとは思うのです。しかし、今のこの情勢の中で、これからますますこの傾向は強くなっていくのだと思うのです。ますます高齢化が進み、そして同時に滞納者もふえてくる、こういう中でひとつ町長にお聞きをしたいのですが、これからこういう状態の中で果たしてこの邑楽町はどうなっていくのだろうか、その辺の予測も踏まえて町長のお考えをお聞かせいただければと思います。

○立沢稔夫議長 金子町長。

○金子正一町長 高齢者の介護保険制度の問題ですが、今ご質問の中にもありましたけれども、第5期高齢者福祉計画の中では、いわゆる介護認定を受けられた方々あるいは介護予防の方も含まれますけれども、その方々への介護サービスが大変ふえているという実態があるわけです。加えて邑楽町の高齢化率も現在では21%という、今後なおふえるというような計画の中での保険料の引き上げ決定をさせていただいたわけでありますけれども、これを将来的に邑楽町に置きかえた場合に、私はやはりこの介護サービスとあわせていわゆる介護予防の方々を1人でも多くふやす中で、健康な方を町の行政の中で多くしていくと。健康な方をふやす計画が必要だろうというふうに思っておりますし、そういう点ではその介護計画の中でも、第5期の中でもそのようなことはうたわれているわけです。

したがって、やはり高齢化が進むと同時に、介護サービスを受ける方が多くなるということは、これは事実としてあるわけですので、できるだけそういった元気なお年寄りの方を維持していくということが大切だというふうに思っておりますし、大変な引き上げにはなってしまったわけでもありますけれども、これらが少しでも引き上げがなくなるような方法をとっていくという必要性をひしひしと感じているわけです。したがって、高齢者の皆さんへの介護サービスについては、充実をし

ていかなければならない、同時に健康な高齢者の方をつくり出していくということが求められていくことですし、進めていく施策の一つだというふうに思っております。

○立沢稔夫議長 大野貞夫議員。

○8番 大野貞夫議員 病気をしないで、本当に元気な生き生きとしたお年寄りが1人でも多くなる、そういうためには従来から私も言っておりますけれども、そういった環境整備をできるだけ早く、もう既に何年後かには何人という人数までもう計算されているわけですから、それに乗りおくれなように毎年、毎年介護保険が1億円を超える、こういうふえ方をしていくのは異常と言えば異常ですが、現実的にはそれだけお年寄りがふえているということは現実の問題ですから、やっぱりそれに積極的に取り組んでいくという点からするならば、今町長が言われたようなことを積極的にぜひ進めていっていただきたい、このように思います。

いただいた資料の中で、これでいきますと平成24年度の見込み数ということで、人数が記されておるわけですが、6,342名という人数になっております。これは、このいわゆる第4期の今までの平成23年度までの保険料から、今度値上げをする、これの金額をちょっと計算してみましたが、何と7,176万9,360円、こういういわゆる7,200万円もの負担がこの人たちにかかってくるという、これは現実の問題であります。そういう点では、かなりのいわゆるこれに対して私の身近なところでもいわゆる無年金者もおります。それから、非常に何と申しますか、月に3万円前後とか、こういうお年寄りもおります。こういう人たちからすると、まさにどうしてこれから生活してやっていったらいいかという、切実な問題がこれからますます突きつけられてくると思います。

そういう点では、先ほど言った県の財政安定化基金、これの取り崩し、これもやられているわけですが、各自治体によってはこの段階の区分、現在邑楽町では先ほど言いましたように2つほど段階をふやして、実際には8つの段階になっているわけですが、場所によってはこれをさらに細分化をして、いわゆる応能負担と申しますか、できるだけお金をたくさんもらっている方にはその分をいろいろ払っていただくという中で、低所得者の負担をできるだけ軽減をしていく、こういうことをやっている自治体も実際にあります。それから、場合によっては一般会計からのさらなる繰り入れを町独自の軽減策としてやっていく必要もあるのではないかと申すのですが、町長のお考えをお願いいたします。

○立沢稔夫議長 金子町長。

○金子正一町長 保険料の徴収基準については、今ご質問の中にもありましたけれども、従前の6段階から8段階ということで、2段階ほどふやささせていただきました。この目的は、いわゆる所得に応じてではありますけれども、いわゆる保険料の納入の緩和をするための基準額が4,900円ということで決まったわけですので、その基準額よりも所得等が少ない該当者については、それぞれの段階に応じて緩和策をとった。これは、今ご質問の中にもありましたように、邑楽町でもそのような施策で取り組んでいくということに先日決定をいただきましたので、ご質問のとおりというふうに

ご理解いただいて結構だというふうに思います。

それから、一般会計からの繰り入れをふやして、介護保険の加入該当者に対しての軽減をすべきではないかということではありますが、これについてはその状況に応じて過去にも一般会計からの繰り入れを行っているということでもありますので、当然のことでもありますけれども、一般会計からの繰り出しということも慎重にしていき、なおかつ介護保険の事業についてもそのような状況が発生した場合には、十分慎重に対応していかなければならないということで、現在も一般会計の繰り入れについては行っておりますので、これまたご理解をいただきたいというふうに思います。

○立沢稔夫議長 よろしいですか。

ほかに質疑はございませんか。

小沢泰治議員。

○10番 小沢泰治議員 例えばランニング、徒競走でいえば1周400メートルあるグラウンドを最終段階、第4コーナーの本当の終わりがこの介護保険が生きてくるところだと思うのです。それで、今お話があったように、非常に予算的にも多くかかる、対象者がふえますから多くかかる、そういう中であって、ぜひそれを出費が減るようにするために何をしたらいいか、私は幼児期からの生活習慣というか、そういうことだと思うのです。それで、現在高齢化率が20%の前半から50%に大きく上っていく、それが実態ですから、その中であっていかに第4コーナーの最後をお金がかからないように各個人がなるためにどうしたらいいか、それについてはやはり行政の果たす役割が非常に多いのではないかと思います。

ですから、行政と民間でそのようなことが起きないように、最後の最後まで、例えば国保税の問題、社会保険料の問題、そういうことについても、それが軽く済むように施策として現役の高齢者になっても現役であり続けるような施策をぜひとっていただければと思います。やはり現役でいるということは、もろもろで人のためになるという認識を得ますので、社会に貢献する、そういうことを各人が持てるような社会体質、体制をつくるのが一番この高齢者問題の解決には早道かと思います。そういうことで、町長のお考えをそのことについてぜひお聞きしたいと思います。

よろしくをお願いします。

○立沢稔夫議長 金子町長。

○金子正一町長 先ほどもお答えしましたけれども、まず元気な、そして生き生きと生活できるような高齢者を、そのための施策を進めていかなければならないというふうに申し上げました。そのことについては、行政のみならず、やはり関係する方々もみずからの健康保持のために日々努力をしていただくということも大切だというふうに思っていますから、行政の中だけでの対応ということもあるかもしれませんが、一体となった上での健康な町民の皆さんへの保健推進事業が必要だし、やっていくということが求められるというふうに思います。

○立沢稔夫議長 小沢泰治議員。

○10番 小沢泰治議員 ぜひ日本が進めるべく学校教育等、いろいろあるわけですが、地域において社会教育の充実の中にもそういうことを念頭に置きながら事業を組んでいただき、また皆さんがやはり先ほどお話ししましたが、行政と一般企業、事業者がということをお話ししましたが、ぜひ高齢になっても仕事を持ちつつ、またその結果として収入も得ながら社会貢献ができる、その喜びを皆さんで分かち合えるような、ただ楽しむだけでなく、そういう社会をぜひつくり上げていただければと思います。よろしくお願いします。

○立沢稔夫議長 進行してよろしいですか。

〔「はい」と呼ぶ者あり〕

○立沢稔夫議長 これにて質疑を終結します。

これより討論に入ります。討論ありませんか。

坂井孝次議員。

〔7番 坂井孝次議員登壇〕

○7番 坂井孝次議員 議案第19号 平成24年度呂楽町介護保険特別会計予算について、賛成討論をいたします。

平成24年度の介護保険特別会計予算総額は、約16億円です。前年度に比べ約1億円増加をしております。それから、平成24年度から26年度までの第5期高齢者保健福祉計画、それから介護保険事業計画においても高齢者の数はますます増加するというふうな予想されています。

したがって、介護保険認定者、それから介護サービス利用者も増加します。そういうことで、介護保険給付費は年々増加が見込まれます。そういう環境にありまして、高齢者がやはり住みいい町をつくるということが呂楽町の使命でありますので、これに関しては地域包括支援センターを中心に、健康管理とか指導をいただいて、運動機能の向上など、介護予防事業に積極的に取り組んでいただくことを要望しまして、本議案に賛成いたします。

○立沢稔夫議長 ほかに討論はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○立沢稔夫議長 これにて討論を終結します。

これより議案第19号 平成24年度呂楽町介護保険特別会計予算を採決します。

本案は原案のとおり決定することに賛成の方は起立願います。

〔起立多数〕

○立沢稔夫議長 起立多数。

よって、議案第19号は原案のとおり可決されました。

◎日程第5 議案第20号 平成24年度呂楽町下水道事業特別会計予算

○立沢稔夫議長 日程第5、議案第20号 平成24年度呂楽町下水道事業特別会計予算を議題とします。

これより質疑に入ります。質疑ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○立沢稔夫議長 進行してよろしいですか。

〔「はい」と呼ぶ者あり〕

○立沢稔夫議長 これにて質疑を終結します。

これより討論に入ります。討論ありませんか。

半田晴議員。

〔6番 半田 晴議員登壇〕

○6番 半田 晴議員 議案第20号 平成24年度呂楽町下水道事業特別会計予算について、賛成討論を行います。

公共下水道の整備も順調に進み、新たに5ヘクタールの供用開始区域の拡大を図り、135ヘクタールとする予定であり、関係者の協力のもと排水設備接続も順調に進められております。本年度の予算総額は2億9,573万4,000円で、前年度に比べ13.9%の減となっております。歳入につきましては町債を減額し、歳出につきましては経費の削減を図り、効率的な事業執行に努めていると認められます。

厳しい財政状況の中ではありますが、さらなる創意工夫を重ね、経費削減を図り、面的整備におきましても効率的な事業推進を図るよう期待しております。

また、施行に際しては説明会を開催し、受益者のご理解、ご協力をいただき、さらに効率的な事業執行に努めるよう要望し、本案に賛成いたします。

以上です。

○立沢稔夫議長 ほかに討論ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○立沢稔夫議長 これにて討論を終結します。

これより議案第20号 平成24年度呂楽町下水道事業特別会計予算を採決します。

本案は原案のとおり決定することに賛成の方は起立願います。

〔起立全員〕

○立沢稔夫議長 起立全員。

よって、議案第20号は原案のとおり可決されました。

◎日程第6 議案第21号 平成24年度呂楽町学校給食事業特別会計予算

○立沢稔夫議長 日程第6、議案第21号 平成24年度呂楽町学校給食事業特別会計予算を議題とします。

これより質疑に入ります。質疑ありませんか。

本間恵治議員。

○14番 本間恵治議員 事業収入でございますけれども、前年度に比較すると198万4,000円ほど下がっているわけですが、これについては対象人員の減少によるものかなというふうに思います。そして、この中で滞納繰り越し分ということで1,000円とってありますけれども、これは多分存目で置いてあるのかなというふうにも理解するわけですが、邑楽町におきましては、この給食費の滞納は以前私が所管したときにはなかったと、100%納入していただいていたという経緯がありますけれども、このことにつきまして24年度の当初予算に存目でのせてありますけれども、現状はどのような形であるのかお聞きしたいと思います。

○立沢稔夫議長 河内学校教育課長。

○河内 登学校教育課長 答えを申し上げます。

平成20年までは議員がおっしゃるとおり100%の納入で推移をしておりましたけれども、21年度だったと思いますけれども、ほんの数名でございますけれども、これは21年度につきましては具体的に言えば一家族で2人のお子さんがいたのですが、その数カ月分が滞納になりました。その後、学校、それから給食センターの努力によって、それらも少しずつでありますけれども、納められている状況でありますけれども、まだ今年度においても若干おくれぎみのご家庭も見られる状況であります。引き続き私どもも納めていただけるように、公正、公平な事業執行ができるように努めてまいりたいと思いますので、ご理解いただければと思います。

以上です。

○立沢稔夫議長 本間恵治議員。

○14番 本間恵治議員 邑楽町におきましては、給食の袋で実際に子供たちが徴収しているということで、そういう部分では集めるのは大変かもしれませんが、100%に近い人たちがきちんと納入していると、これにつきましては私はこの納入方法がきちんとしているあらわれではないかなと思います。以前振り込みにしたところにつきましては、25%と滞納がございました。そういう現状がなく、邑楽町におきましては健全な納入方法がとられているのではないかなというふうに私も思います。今後も努力をしていただいて、滞納者が少なく、100%納めていただけるような対応を今後もとっていただければと思います。

よろしく申し上げます。

○立沢稔夫議長 答弁、どうですか。

〔「いいです」と呼ぶ者あり〕

○立沢稔夫議長 よろしいですか、はい。

ほかにございますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○立沢稔夫議長 進行してよろしいですか。

〔「はい」と呼ぶ者あり〕

○立沢稔夫議長 これにて質疑を終結します。

これより討論に入ります。討論ありませんか。

大野貞夫議員。

〔8番 大野貞夫議員登壇〕

○8番 大野貞夫議員 議案第21号 平成24年度邑楽町学校給食事業特別会計予算についての賛成討論を行います。

平成24年度の予算は、前年度に比べると新センターの建設費にかかる部分がなくなったため、大きな減額となっていますが、全体では2億7,469万9,000円という大きな金額です。そのうち1億3,500万円強は保護者などからの給食費としてお預かりするものであり、保護者の気持ちがかもったものであります。ぜひこのことを忘れることなく、園児、児童生徒のみならず、保護者の期待する安全・安心でおいしい給食を子供たちに提供されるよう、引き続き事業執行に当たられることを要望します。

昨年8月から稼働している新学校給食センターは、多くの関係者に協力をいただきながら、毎日約3,000食の給食を順調に配食していますが、厳しい財政状況の中、今後も効率的な事業運営を推進されるよう期待して、本案に賛成をいたします。

○立沢稔夫議長 ほかに討論ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○立沢稔夫議長 これにて討論を終結します。

これより議案第21号 平成24年度邑楽町学校給食事業特別会計予算を採決します。

本案は原案のとおり決定することに賛成の方は起立願います。

〔起立全員〕

○立沢稔夫議長 起立全員。

よって、議案第21号は原案のとおり可決されました。

◎日程第7 議案第22号 平成24年度邑楽町水道事業会計予算

○立沢稔夫議長 日程第7、議案第22号 平成24年度邑楽町水道事業会計予算を議題とします。

これより質疑に入ります。質疑ありませんか。

進行してよろしいですか。

〔「はい」と呼ぶ者あり〕

○立沢稔夫議長 これにて質疑を終結します。

これより討論に入ります。討論ありませんか。

小島幸典議員。

〔12番 小島幸典議員登壇〕

○12番 小島幸典議員 議案第22号 平成24年度邑楽町水道事業会計予算について、賛成討論を行います。

水道事業は、安全な水を常に安定して供給するとともに、町民の健康や生活に直接かかわる重要な事業であります。収益的収支においては、一般家庭の節水型生活様式の定着等により、水需要は年々減少している中、553万6,000円ほどの利益を計上していることは経営努力がうかがえます。

資本的収支においては、石綿管の改修工事や配水管布設工事等に取り組んだ結果不足額が生じ、留保資金や積立金等により補てんを行っておりますが、これは効率的な投資に努めた結果と認められます。

厳しい経営環境の中ではありますが、効率的な事業執行や経費の削減に努め、安定経営に向けてさらなる努力をするよう要望し、本案に賛成いたします。

○立沢稔夫議長 ほかに討論ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○立沢稔夫議長 これにて討論を終結します。

これより議案第22号 平成24年度邑楽町水道事業会計予算を採決します。

本案は原案のとおり決定することに賛成の方は起立願います。

〔起立全員〕

○立沢稔夫議長 起立全員。

よって、議案第22号は原案のとおり可決されました。

◎散会の宣告

○立沢稔夫議長 以上で本日の日程は終了しました。

あす16日は午前10時から本会議を開きます。

本日はこれにて散会いたします。

大変お疲れさまでした。

〔午後 零時24分 散会〕